2026・7
令和８年７月１日発行　No.998

新市誕生から20年
広がる、深める郷土のあゆみ

新市誕生から20年が経過しました。この間、地震や雪害、人口減少など、さまざまな出来事を経て社会環境は変化しました。その変遷を歴史資料などからたどり、各地域のあゆみを振り返ります。

問合先　総務課市史資料室（北村支所内）☎56-2001

第４回　北東地域に誕生した行政界を越えた地縁共同体

樺戸集治監および空知集治監によって明治23年に月形村と峰延間の樺戸道路、岩見沢村岡山と峰延間の道路が開通し、岩見沢村北東地域の開拓が進みました。翌年、岩見沢・歌志内間に鉄道が開通すると峰延は、上川道路と鉄道が交わる交通の要衝になり、空知集治監に近い峰延駅は、政府要人が利用する駅としても賑わい、屯田兵が光珠内に配置されると、幌内（三笠市）や峰延の炭鉱関係者や商人たちが集まり市街地ができました。

明治26年ごろから稲作が奨励されると、市来知村（三笠市）や沼貝村（美唄市）では、空知集治監や屯田兵が開いた農地でも稲作が広がりました。移住者が増加していた樺戸道路沿いでは、達布山を水源とする２号川を利用した稲作のほか、神社の建立や獅子舞などの祭事も盛んになりました。その後、沼貝村との行政界が樺戸道路から道路南側を流れる２号川に変更され、樺戸道路沿いの集落全体が岩見沢町を離れました。行政界が変更になっても、峰延地域では青年団体などを中心に、開拓に伴う苦労やさまざまな行事を通して〝乏しきを分ちあい、足りなさを補いあいながら〟、行政界を越えたつながりが維持されました。この絆は、大正２年の大凶作を機に、産業組合の結成に発展しました。

大正期に入り、大願などを含む北東地域の開拓に伴い移住者が増えると、神社の建立や新たな町会組織ができましたが、峰延地域の生活が安定するのは、昭和４年の北海灌漑用水路の竣工により、水稲の作付が広く定着するまで待たなければなりませんでした。集治監による樺戸道路の開通、農地開拓と稲作への挑戦により形成された集落は、行政界を越えた新たな地縁共同体として北東地域の文化・経済活動を担うことになりました。

（成就山大願寺所蔵）
峰延原野 伊藤農場の３頭曳開墾（大正２年）

キラリ！その瞬間

市内のできごとをお伝えします！

６月１日㈪　メープル小学校と岩見沢小学校の合同田植え

人の動き

住民基本台帳（令和８年５月31日現在）

人　口	男	33,631	人	（前月比 － 66）
	女	38,480	人	（前月比 － 52）
	総数	72,111	人	（前月比 － 118）
うち外国人		549	人	（前月比 ＋ 50）
世帯数		40,010	世帯	（前月比 － 30）

広報紙に関するご意見・ご要望は、はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Ｅメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）、総務部秘書課広報室へお願いします

岩見沢市役所
〒068-8686　北海道岩見沢市鳩が丘１丁目１番１号
☎0126-23-4111（代表）　FAX 0126-23-9977

ホームページ　X（旧 Twitter）　Facebook　Instagram　LINE

いわみざわ公園

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数　各号２枠（申込多数の場合は抽選）
掲載料　各号１枠22,000円
申込期限　掲載希望号の３カ月前の月末（10月号に掲載希望の場合は７月31日㈮までに申し込み）
申込方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください
ID：14518

UD FONT　見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。

発行・編集　岩見沢市総務部秘書課広報室

広報紙はとじておきましょう